

東地区中学校適正配置実施(案)

## 地域説明会ニュース

第1回目

『東地区中学校適正配置実施(案)』についての第1回地域説明会の状況をお知らせします。

## 1. 説明会の状況

説明会にはPTA会員、町内会会員、学校評議員の方々がお集まりになり、午後7時から次のとおり開催しました。はじめに山本学校教育部長から挨拶の後、計画内容の説明、質疑応答に移りました。

5月24日(木)	帯広第三中図書室	16名	6月1日(金)	帯広小ふれあいルーム	16名
5月28日(月)	帯広第六中コミュニティルーム	20名	6月5日(火)	光南小ラーニングルーム	8名
5月29日(火)	柏小コミュニティルーム	32名	6月17日(日)	帯広第六中コミュニティルーム	7名
5月31日(木)	東小図書室	24名		(日曜午後2時開催)	

地域説明会風景(柏小)



## 2. 主な質疑の内容

出席者からの主な質疑応答は、次のとおりです。

## 適正配置の手続きについて

- (質問) 基本方針では平成22年度に統合するとしていたのだが、実施案では平成23年度に統合となったがなぜか。(六中)
- (回答) 平成23年4月1日に開校となったのは、工事期間と地域住民の方への説明期間を確保するためです。
- (質問) この実施案について、市内部ではどのような手続きを経て決定したのか。(六中)
- (回答) 小中学校適正規模及び適正配置に関する基本方針については、市議会でも審議をいただき、教育委員会において決定しています。今回は、この基本方針に基づき、個別の実施計画案を説明し、ご理解をいたごうとするものです。
- (質問) 第六中では統合によって、7学級から15学級となるが、いじめが増えるかもしれない。単純に生徒数が増えればいいのか。少子化はかなり前からの問題となっているのに、市内の西帯広地区では、開西小、森の里小、つつじが丘小と新設してきた。しかし、今度は全市的な統廃合の計画へとシフトすることとなり、理解できない。(六中)
- (回答) 校舎等の物理的な問題や教員の配置など学校としての機能を考え、1学年4~6学級が適正な規模の中学校であると基本方針で決めました。適正規模の学校になることにより、主要教科への教員の複数配置による教育内容の向上や部活動の拡充・教員が幅広く多くの目で子どもたちを見守ることができたり、子どもたち同士のふれあいや社会性を身につけるなどの教育効果が考えられます。
- (質問) 国の教員配置基準では学級数によって教員数が決まるから、市では統廃合を行うのか。(柏小)
- (回答) 今年の推計では、今後10年間で市内小学校の児童が2,000人減る推計となっています。特に東地区と西帯広地区の児童生徒が激しく減少していきます。適正な規模を維持するために、各地区において小学校は1校程度減る計画となっており、東地区だけの問題ではありません。
- (質問) 統合はだれが決めるのか。反対意見が多ければ統合は行わないのか。(柏小、光南小、日曜)
- (回答) 「帯広市立小中学校の適正規模及び適正配置に関する基本方針」で全市的な大きな方向性を決定しましたので、基本方針の考え方を後戻りする考えはありません。しかし、PTAや地域の方々に理解してもらうための時間がかかったり、予算の関係で遅れたりすることはあるかもしれません。
- (質問) 各説明会での主な意見は、第六中や東小などで出たものか。(光南小)
- (回答) 説明会での主な意見の内容は、小学校のPTAからは「統合に関する生徒への配慮」、「通学の安全上の配慮」、中学校を会場としたときには「伝統校を閉校する疑問」、「統合新校の場所」などの意見がありました。

## 地域説明会について

- (質問) 第三中と第六中の保護者同士で、意見交換の場が必要ではないか。(六中)
- (回答) 今後、それぞれの説明会で、意見がまとまってきた段階で、意見交換の場を検討します。第2回目の説明会については、各中学校を会場として開催する予定です。
- (質問) ホームページに地域説明会の結果を載せて、市民に周知してほしい。第三中での説明会の結果については、新聞紙面でしか内容がわからない。(六中、東小、日曜)
- (回答) ホームページには説明会の内容を報告し、また、地域ニュースとして紙面にまとめて、各学校のPTAや町内会に配布します。保護者の方々がこのニュースを読むことにより、2回目、3回目の説明会に出席していただきたいと考えております。
- (質問) 今回の説明会の周知方法はどのようにしたのか。(六中)
- (回答) 周知方法は、2週間前に生徒を通じて案内文書を保護者に配布したことと、町内会に対しては班回覧できるようにチラシを会長宛に発送およびここ10年位のPTA会長さんへも案内をしました。さらに25日にもう

一度案内チラシを保護者にお配りしました。

(質問) 第六中の生徒数の推計では減少するようだが、基となる小学校ごとの構成する生徒数はどのようになるのか。また、教員の配置数についても、実施案のポイントなどに記載してほしい。(六中)

(回答) 構成する小学生の推計の出し方につきましては、内部で検討しわかりやすい形でお示しします。また、教員の配置数につきましても、地域説明会までには、実施案のポイントに掲載します。

#### 通学区域について

(質問) 第六中を単純に廃校にするのではなく、通学区域の再編成等を検討したのか。(六中、日曜)

(回答) 第六中の通学区域が隣接しているのは大半が第三中であり、第三中も生徒数の減少が見込まれるため、区域の見直しは考えていません。ただし、帯広小の西側の通学距離が3km以上の区域については、第一中への区域外通学についても検討したいと考えています。

(質問) 東地区は街路灯や信号機が少ないが、通学方法や通学時の安全面についてはどのように考えているのか。(三中、六中、東小、帯広小、光南小)

(回答) 本市の中学校では通学距離の基準を4kmとしておりますが、冬期間徒歩で通える距離は3km程度と考えており、統合後の通学区域はほぼこの範囲に入っています。現在、第三中では保護者会が判断して自転車通学を認めており、統合後もこうした対応を尊重します。

自転車通学や通学時の安全確保、街路灯や信号機等の交通安全施設の整備などについては、統合準備協議会で検討し、関係部署等に働きかけていきます。

#### 統合準備協議会について

(質問) 統合準備協議会で議論できること、できないことを明確にしてほしい。議論できない項目によっては市教委に陳情へ行くなどを考えなければならない。また、統合準備協議会の協議内容を事前に示し、PTAで意見を集約できるようにしてほしい。(六中、柏小、東小)

(回答) 統合準備協議会では、校名・校旗・校歌などの論議を行い、校舎の改修などの内容についても要望をお聞きます。次回の説明会までに、議論する項目などを整理しご提案します。

また、統合準備協議会の協議内容を事前に周知するようにします。

(質問) 統合準備協議会のメンバーおよび人数はどのように考えているのか。協議の場は別になるかもしれないが、当事者として生徒を統合準備協議会に加えてほしい。(柏小、東小)

(回答) メンバーは、保護者、教員、地域の方々、教育委員会で構成する予定であり、具体的な内容については次回の説明会にお示しします。また、生徒の統合準備協議会への参加につきましては、会議の開催が主に夜間となりますので直接参加する形ではなく、何らかの方法で生徒の意見・要望等を聴取できるように考えていきます。

#### 事前交流について

(質問) 統合時に中学3年生となる現在の小学5年生が中学生になった段階から、両校の交流を進めるよう配慮してほしい。例えば、統合までに第三中の教員が第六中で教えたりする交流などは考えているのか。また、両校の交流がスタートする時期はいつなのか。(三中、柏小)

(回答) 早い段階から、部活動や学校行事、PTA活動などの交流を検討しスムーズな統合に向けた環境づくりを進めていきたいと思っています。教員の交流についても実施を検討します。

#### 事前調整について

(質問) 統合までに学校間の成績などの調整はするのか。統合によって、受験に影響が出ないか心配だ。(三中、柏小、帯広小)

(回答) 教育内容や総合的な学習、選択教科の実施方法、部活動については、統合までにそれぞれの項目について調整していきます。特に、生徒の評価規準なども調整いたします。

#### 教員の配置について

(質問) 統合新校への教員配置をどのように考えているのか。また、教育特区の申請などにより、教員を市独自で配置することはしないのか。(六中、柏小、帯広小、日曜)

(回答) 統合の際には、生徒・保護者の不安がないように、両校の一定数の教員を新校に配置することや教員の加配等について道教委にお願いする。教育特区は、市費負担の教員となることから、難しいものと考えております。市費による補助教員の配置については検討し、次回以降の説明会でお答えします。

#### 制服等について

(質問) 制服やジャージについては、いつ頃までに決定するのか。制服の使い回しを行っており、デザインなども配慮してほしい。(東小、帯広小)

(回答) 平成20年度に統合準備協議会を立上げ、統合時に中学3年生となる新入生(平成21年度)に間に合うよう制服・ジャージのデザインなどについて検討していきます。

#### 学級編成について

- (質問) 中3のときに統合した生徒が、クラスや学年の友達の名前もわからないような状態で修学旅行に行つて楽しめるのか不安である。統合時の生徒だけが不利になるようなことが無いようにするべきである。(帯広小)
- (回答) 統合時の学校生活等に対する不安の解消策につきましては、いただいたご意見を検討し、次回以降の説明会にてご説明できるようにしたいと考えています。
- (質問) 国の基準としての40人学級では、教員の目が行き届かなくなり、コミュニケーション不足になったりして、不登校の生徒が出るなどの問題が生じることが考えられる。1学級の生徒数が多いのではないか。(日曜)
- (回答) 国の基準で40人学級と決められて、市としては国に対して少人数学級の実現を要望しているところです。

#### 校舎の工事について

- (質問) 第六中の校舎のほうが第三中の校舎より新しいので、統合新校は第六中の校舎を使うほうが安上がりになるのではないか。(六中)
- (回答) 第三中の校舎の位置は東地区の中心にあるため、第三中の校舎を活用することにしました。学校の適正配置は、生徒に対してよりよい教育環境を提供するものであり、統合新校の改修や増築に掛かる工事費などの抑制を考えたものではありませんので、ご理解ください。
- (質問) 校舎の増改築工事の規模や授業への影響について教えてほしい。(三中、六中、柏小)
- (回答) 工事のスケジュールとしては、平成20年度に実施設計を行い、21、22年度に工事を行います。工事については、大掛かりなものは夏休み・冬休みなどに行い、授業に影響が出ないように配慮します。校舎については、耐震補強工事を最優先で考えており、全面的なリニューアル(校舎内部、屋根、水回り等)や特別教室などを増築し、現在の教育環境よりよくなるようにします。
- (質問) 校内LANとはどんな設備か。現在校内LANが整備されていない第三中の生徒は、第六中との統合時にパソコン技能レベルに差が生じないか。(帯広小)
- (回答) 校内の全ての普通教室や特別教室を配線で結び、どこかの教室からでもコンピュータを接続して利用できるようにするシステムで、コンピュータを利用した授業に使用します。生徒のパソコン学習には両校ともパソコン教室を使用しているため、生徒自身の技能学習に影響は生じません。また、校内LANが整備されていなくても、コンピュータを利用した授業は可能です。
- (質問) 車椅子の生徒なども支障がなく授業に出るように、統合新校の校舎を建てる時には、エレベーターの設置やトイレなどをバリアフリー化してほしい。(日曜)
- (回答) エレベーターの設置につきましては、平成20年度の実施設計の段階で検討していきます。また、トイレなどのバリアフリー化につきましては、既存校舎の改修工事の中で行っていきます。

#### 先進地の事例について

- (質問) 他都市の学校統合の事例を研究して、諸問題が生じないように進めてほしい。(三中、六中、柏小、帯広小、光南小)
- (回答) 道内では釧路市や札幌市、道外でも杉並区や横浜市など多くの都市で既に取り組んでおりますので、このような事例を参考にしながら、問題が出ないように配慮し進めていきます。

#### PTAおよび同窓会の統合について

- (質問) 統合になるとPTA組織も再編となることから、様々な課題が生じると思うのでクリアしてほしい。また、同窓会は統合できるのか、先進事例があれば教えてほしい。(六中、光南小)
- (回答) PTAの統合に関する諸課題については、統合準備協議会で話し合っていたいただきたいと思います。また、同窓会の統合については、各都市の事例を調べます。

#### 生徒へのサポート体制、受験への心配、修学旅行の問題について

- (質問) 統合時に中学3年生となる生徒の親は修学旅行や受験のこともあり一番心配している。「1年目だから仕方がない」ということだけは言わないでほしい。心配した状況が生じないようソフト面の配慮などしっかり対応してほしい。(柏小、帯広小、光南小)
- (回答) 評価規準の統一や学校間の事前交流など綿密な対応を考えていますが、いただいたご意見を検討し、次回の説明で具体的対応についてお知らせします。

#### 校舎の利活用について

- (質問) 廃校後の校舎の利活用をどう考えているのか。土地の売却に当たっては、事前に地域にも説明してほしい。(柏小)
- (回答) 校舎の一部と体育館は解体処分をし、残る校舎につきましては、全庁的に活用方法を検討します。また、土地の売却に当たっては、事前に地域に説明をします。
- (質問) 統廃合については国では奨励しているが、校舎に対して処分の制限緩和はようになってきているのか。(東小)
- (回答) 学校校舎は、国からの補助金により整備しております。確かに廃校となった校舎の処分制限はありますが、使用用途の基準が毎年緩和されてきています。

### その他の項目について

- (質問) 今回の統廃合は、帯広市において初めてのケースであり、今後の統廃合の模範となることから、われわれも責任を感じる。例えば、「統合新校のめざす姿」は、今後の統廃合のときも当てはまるのか。(三中)
- (回答) 第三中、第六中は、素晴らしい校風や市内中学校を先導している部分もあります。今後の統廃合では、その状況に応じて作るものと考えております。
- (質問) 説明会はこれから毎月1回行うのか。これだけ出席者が少ないと、第三中のPTAの総意なのかかわからないし、この状況が続くのであれば、今後の説明会への出席者も減るかもしれない。(三中)
- (回答) 6月17日までに第1回目の説明会を行い、7月、8月、9月に各1回の説明会を予定していますが、地域の方々を理解していただけた場合は、途中で説明会を中止する場合も考えられます。
- (質問) 統合新校が、なぜ第三中の校舎で第六中ではないのか。(六中)
- (回答) 基本方針、適正配置計画では7つの区域に分けて、適正な学校配置を決めました。現在の第三中の校舎は東地区の中心にあるため、第三中の校舎を活用することにしました。
- (質問) 第六中と他校との進学状況の比較データはないのか。また、人数が少なくても教育環境は良い状態ではないのか。(柏小)
- (回答) 中学生の進路状況についてのデータは、個人情報のため、市教委では集約していません。中学校生活では学業や部活動を通じて助け合い、競い合いにより広範な特性を身につけてもらいたいと思っています。そうした環境を維持するには、適正な学校規模であることが望ましく、統合や通学区域の見直しが必要となってきます。
- (質問) 小規模校は子供たちのことがよくわかるというメリットがあるので、第六中をこのまま存続してほしい。(柏小)
- (回答) 小規模校には、子供をよく見守ることができたり、家庭的な良さがありますが、反面、人間関係が固定化してしまうとなかなか改善しづらい点があります。生徒が集団生活できる適度な広がりを持つ規模として今回の統合を進めています。仮にいじめがあったとしても、教員が見守るだけでなく助け合う友人がいる規模やいろいろな学習形態ができる規模の学校となるように進めていきます。
- (質問) 帯広市の都市計画とこの統廃合の計画はどのような関係になっているのか。(東小)
- (回答) 都市計画と適正配置計画は基本的に整合性を取りながら、進めていかなければなりません。現在まで、まちづくりにぶれはありませんが、計画策定時に想定していなかった少子高齢化の問題が出てきて、まちづくりの方向を見直しつつありますが、児童生徒に対しては適正配置を進めるということになってきました。また、高齢者に関しては、高齢者に優しいまちづくりといった施策を進めております。
- (質問) 高齢者と子どものふれあいや教育へのかかわりで、高齢者をどう活用していくのか興味があった。(東小)
- (回答) 学校現場では、開かれた学校づくりを進めており、授業・部活動などにおいて地域の方々にて育ててもらっています。地域の高齢者の方々には、皆さんが持っている知識や経験を子どもたちに提供し新しい学校づくりに参加していただきたいと思っています。
- (質問) 基本方針に関するパブリックコメントで要望意見を出したが、氏名等を記載したのに回答が来ない。(東小)
- (回答) パブリックコメントで出された意見については、1件1件お答えするのではなく、まとめて整理した上で、ホームページ等に掲載しております。回答方法について周知されていなかったことはお詫びします。
- (質問) 教育環境も含めて住みやすい環境でないとい住民は違う場所へ転居してしまい、地域は衰退してしまう。帯広市全体が住みづらい所とならないのか。(日曜)
- (回答) 現在、高齢者や女性を含めた地域の方々にはボランティアとして学校運営に参加していただき、学校教育を充実したいと考えています。併せて、新しい時代の学校のあり方を研究しているところであります。
- (質問) 第六中の歴代PTA会長の写真やカップなどを保存して、後世に残してほしい。第六中で保存しているものは1つも失いたくない。(日曜)
- (回答) 第三中・第六中の両校ともに廃校となるので、歴史と伝統に係わる記念物品については保存し、卒業生の想いも伝えていくようにしたいと考えています。
- (意見) 統合するのであれば、校舎の新しい第六中に統合すべきであると考えている。(六中)

### 3. 今後のスケジュール

第1回目の地域説明会での質疑を踏まえて、第2回目の地域説明会を7月中旬に予定しています。地域説明会の開催については、案内文書の発送や市のホームページにより、後日、ご案内します。

#### ご意見・お問い合わせ

帯広市教育委員会 学校教育部 企画総務課

〒080-8670

帯広市西5条南7丁目1番地 (市役所本庁舎 8階)

電話番号 0155-65-4201(直通) ファックス番号 0155-23-0161

メールアドレス school\_general@city.obihiro.hokkaido.jp

